

大分のクモ相撲

関根 幹夫

The spider-fighting in Oita City

Mikio Sekine

This is a report on the 1st spider-fighting competition in Oita City, Kyushu Island. This event was held at Jokeiji temple, in Kisagami on July 28, 2013. Until now, at Jokeiji temple, a local spider-fighting event was held 12 times. The slender stick used to be held by the referee's hand. This time the usage of the stick varied until it was fixed onto the vertical post. It is modeled after that used in Kajiki, the most famous spider-fighting in Japan.

はじめに

コガネグモを横棒上で闘わせるクモ相撲は、日本各地で組織化・行事化され保存継承されている。筆者は、大分市でクモ相撲が行われていることを確認していたが（関根 2010）、その詳細は不明であった。今回、大分市木佐上の浄慶寺で開催された第1回大分コガネグモ相撲選手権大会を訪問しその取材をしたので、ここに報告をする。

調査結果と考察

大分市木佐上地区では、小学生のサマーキャンプ行事の一つとして、クモ相撲が今までに12回行われてきた。今年は、農業生産振興及びふれあい行事を中心に地域興しに取り組んできた「木佐上コミュニティー」の設立25周年を記念し、通算13回目のクモ相撲行事を「第1回大分コガネグモ相撲選手権大会」と銘打ち、木佐上地域外に参加者を広げて開催された。

2013年7月28日、10時からの開会式に続き、試合は10時30分から開始され、途中30分の休憩を挟んで、13時30分まで行われた。72名の出場者を二箇所の「土俵」に分けて、トーナメント方式で試合が行われた（図1）。

この地のクモ相撲の特徴を列挙すると：

- 1) 出場者と観客は、小学生とその親たち、またその祖父母、さらには子育てを終えた地域コミュニティーの人々であった。幅広い年齢層であった。
- 2) 出場者は、クモを自分で採り育てていた。従って、クモに愛着がわき試合に力がこもり、闘うクモへの声援に熱が入っていた。



図1. 第1回大分コガネグモ相撲選手権大会. 観衆で埋め尽くされた会場の浄慶寺境内.



図 3. 第 1 回大分コガネグモ相撲選手権大会. 2013 年 7 月 28 日.
横棒土俵はたて棒支柱に固定されている.

3) 行事の推進者は、浄慶寺の豊岡 光闡（とよおか こうせん）住職だが、「木佐上コミュニティ」という組織に依拠して行われていた。

以上のことから、この地のクモ相撲は今後も継続していくであろうと期待できる。

また、この地のクモ相撲は、昨年の 2012 年までは、横棒土俵を行司が手で持つ方式でクモを闘わせていたが（図 2）、今回、横棒土俵はたて棒支柱に固定されていた。たて棒に固定された横棒は、鹿児島県始良市加治木町の横棒の「ひもし」より短く、加治木町ではセイタカアワダチソウの木化した茎が「ひもし」として使用されるが、この地のクモ相撲では樹木の枝が使用されていた（図 3）。また、クモの闘いを促すために、加治木町のようにクモに砂をかけることは行われていなかった。クモが闘わない場合には、横棒土俵を棒で叩いてクモの戦意を促していた。このように細部については、加治木町とまったく同じという訳ではないが、今回のクモ相撲大会は、加治木町の方式が取り入れられたものと考えられる。加治木町の「くも合戦」は、組織化されたからの歴史が長く、闘いの方とルール、勝敗の審判基準が確立されている（関根 2011）。浄慶寺の豊岡住職は、2013 年 6 月に加治木町の「くも合戦」を訪問し、その試合方式を加治木町から学んで来られた。また、協賛団体からの副賞提供や試合後のお楽しみ抽選会等も加治木町に学び、今回の大会にそのノウハウを取り入れたと思われる。

引用文献

関根幹夫 2010. フィリピンのクモ相撲の現況. *Acta Arachnol.*, 59: 104-108.

関根幹夫 2011. コガネグモ相撲における横棒土俵の扱い方に関する一考察. *くものいと*, 45:1-10.

奈良県のクロガケジグモの分布 -発見から 36 年経過して-

関根幹夫

**The distribution of *Badumna insignis* (Araneae: Desidae) in Nara Prefecture:
Thirty-six years on**

Mikio Sekine

The distribution of an exotic spider *Badumna insignis*, or Black House Spider in Nara Prefecture, where the species was first found in 1977, was surveyed in 2013. The biological dispersal of this species is shown on this paper. The species was found in 12 cities, 15 towns, and 2 villages in Nara Prefecture. However, the species was not found in Yamazoe Village, Nosegawa Village, Totsukawa Village, Soni Village, Mitsue Village, Kurotaki Village, Tenkawa Village, Shimokitayama Village, Kamikitayama Village, and Higashiyoshino Village. Although *B. insignis* was not found in and around southern mountain areas, this species settled widely in Nara Prefecture (Fig. 1). It suggests that the invasion of the spiders was from Osaka, where the species was first found in 1963. In other words, in Nara Prefecture they perhaps dispersed from the northwestern areas southward. On the other hand, the spiders may have simply been carried by vehicles as was pointed out.

はじめに

クロガケジグモ *Badumna insignis* (L. Koch 1872) (クモ目ウシオグモ科) は、オーストラリアからの帰化種で、1963年に大阪府で最初に確認され(八木沼 1974)、その分布は近畿地方から日本各地に拡大している(新海ら 2012)。Charles R. Darwin (1859) は、種の分散という問題を提起したが、これはとても興味深いテーマである。本種は、どのように分散しているのだろうか？奈良県で本種は、1977年に斑鳩町稲葉西1丁目目で筆者により初めて確認され、御所市、平群町、三郷町、王寺町で生息していることを確認していたが、本種が現時点で奈良県のどの範囲まで分布を拡げているかにつ